

公共施設再編のための市民合意形成手法に関する研究（２）

-さいたま市と野本町小学校における公共施設複合化ワークショップの効果-

正会員 ○桂 達也*
同 川島 優太*
同 倉斗 綾子**
同 志村 秀明***

公共施設 合意形成 さいたま市
小学校 ワークショップ 市民参加

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

本稿では、前稿（１）を踏まえ、公共施設再編のためにさいたま市がモデルケースとして取り組んでいる与野本町小学校を中心とする、公共施設複合化検討のワークショップ（以下：WS）を事例としてWSの効果明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の方法

2章では前稿3章で示したWSで出た市民の意見について分析を行う。3章では意見交換会、模型展示会について文献調査、アンケート調査^{注1)}から分析を行う。

2. ワークショップで出た意見

平成25年度、平成26年度に行われたWSにて出た意見の要約を表1に示す。また、平成25年度、26年度に行われたWSの全体プログラムを前稿の図2に示す。

2-1. 利用・活用に関する意見

(1). 平成25年度ワークショップ

第2回^{注2)}では、泰平小学校と美南小学校の見学により「交流」に関する意見が最も多く出た。第3回では、第2回で先進事例の見学をしたことにより、具体的な「交

流」の意見が出た。第4回では、ロールプレイにより施設管理者の立場での検討を行ったため、「セキュリティ」に関する具体的な意見が多く出た。

(2) 平成26年度ワークショップ

第1回では現況模型を使用したため、「利用・活用」に関する具体的な意見が出てきた。第2回では、デザインゲームにより、配置による「交流」の意見が出た。第4回ではロールプレイにより管理者の視点からの「運営・複合化」の意見が多く出た。第5回の意見交換会では、「利用・活用」に関する意見は少なかった。はじめの頃に多く出た「利用・活用」の意見が「運営・複合化」の意見に反映された。

2-2. 運営・複合化に関する意見

(1). 平成25年度ワークショップ

第2回では、各分野の意見がバランスよく出た。第3回では、「運営・複合化」の意見の割合が大きくなっている。第4回では、デザインゲームにより、第3回の「ソフト面」の意見が「ハード面」の意見に反映された。第5回の意見交換会では、「ハード面」の意見の割合が最も大きくなった。

表1 ワークショップ意見の要約

ワークショップ意見の要約		分類	利用・活用		運営・複合化	
			交流	セキュリティ・災害時対応	ソフト面	ハード面
平成25年度	第2回WS 10月11日	内容: 先行事例の見学 目的: 先行事例を見学し、公共施設のメリット・デメリットについて考える	主な意見: お年寄りとの双方に有意義な交流がある 子どもが高齢者の身体・気持ちにそって優しい対応ができる	空き教室の利用が有効に活用されている 複合化により共有部分が解消された	地域交流を持ちコミュニティの核として存在している 職員が各施設の知識を共有して市民に対応している	お年寄り子どもが触れ合うための動線が複数ある 多くの市民が利用できるように1Fはいつでもオープンしている
	11月11日	内容: 先行事例の勉強会 内容: 複合化対象施設の見学	意見数: 25 (38%)	12 (18%)	16 (24%)	13 (20%)
	第3回WS 11月16日	内容: 複合化対象候補施設を見学し現在の建物、利用状況を把握する 目的: 複合化対象候補施設を見学し現在の建物、利用状況を把握する	主な意見: 0歳から生連関する場にしたい 音の遊び場の継承やしつなげなどの期待ができる	空き教室の利用が有効に活用されている 複合化により共有部分が解消された	近くにふるさと館との共有はできないか コミセンと公民館など機能が似ているものを整理する必要があるのではないか	コンパクトにまとまった地域なので複合化により施設内にコミュニティが生まれるのではないか あまり施設がごちゃごちゃしてしまうと子どもが勉強に集中できなくなってしまうのではないか
	12月2日	内容: ロールプレイ・デザインゲーム(カード) 目的: 施設管理者や利用者の立場で複合化を考える ツール: 平面カード	主な意見: 高齢者と乳幼児・保護者との交流が進むように両センターの玄関を向かい合わせに設置したい	2 (4%)	6 (9%)	17 (34%)
	12月26日	内容: 意見交換会 内容: 機能配室案の再検討 目的: PMで出た意見を踏まえて、改めて配置案を考えてみる ツール: 平面カード	意見数: 4 (18%)	8 (26%)	1 (4%)	12 (52%)
平成26年度	第1回WS 9月25日	内容: ワールドカフェ 目的: 前年度のアイデア・改善点を今年度で参加者と共有する ツール: 現況模型	主な意見: 多世代交流が大切だと考えた 高齢者から子供へ普通遊びが継承できるのは嬉しい	多目的室はセキュリティ上1階の方が良い	いいい荘側でも使えるように音楽室や図書室、家庭料室などを開放ゾーンとして広げていきたい	可動式の扉によってセキュリティゾーンを設ける いいい荘と学校の共有スペースをつくる
	10月23日	内容: デザインゲーム(カード・模型) 目的: 諸室の関係や具体的な動線などの検討を行う ツール: 積み木模型 平面カード	意見数: 6 (16%)	6 (16%)	11 (28%)	15 (38%)
	11月30日	内容: 意見交換会・模型展示会 内容: ロールプレイ 目的: 施設管理者や利用者の立場で複合化を考える ツール: 積み木模型 平面カード	主な意見: 地域交流室は資料室と合わせて3世代交流できる 小学生が小さい子と触れ合うには配置で工夫	放課後児童クラブの空き時間を支援センターに利用 他の目的と連携するスペースをつくりたい	与野文化資料室と複合化することにより、与野の伝統や歴史を勉強する 小学校に地域交流室を取り入れることで、子どもが地域と関わる機会が広がる	仕切りドアの設置で時間帯による使い分けを考えた 遊び施設。教育の場に隣り合わせるのはいらない 外部の人が来る施設は入り口の近くに配置したい 子育て支援を年齢、地域と1階に分ける
	第4回WS 1月22日	内容: 模型展示会 目的: 最終成果物を一般市民の方に見てもらい、意見をもらう 意見交換会を出た意見を踏まえて、改めて配置案を考えてみる ツール: 計画模型	意見数: 8 (25%)	5 (16%)	7 (22%)	12 (37%)
	第5回WS 3月14日	内容: 模型展示会 目的: 最終成果物を一般市民の方に見てもらい、意見をもらう 意見交換会を出た意見を踏まえて、改めて配置案を考えてみる ツール: 計画模型	主な意見: 地域の上で遊ぶ子供たちの声がまちの賑わいになる	施設と合わせることで安全面に少し不安がある 子どもの屋上利用はリスクが大きい	文化資料室を稼げる施設にしたい 各施設を連携させた企画力が必要	生徒と一般利用者の動線が分ける 管理の問題から施設を分散させない方がよい
		意見数	2 (3%)	9 (13%)	22 (31%)	37 (53%)
		計	19 (11%)	28 (16%)	49 (29%)	76 (44%)

(2). 平成 26 年度ワークショップ

第 1 回では初めて模型を使った検討を行い、「ハード面」の意見が最も多く出た。第 2 回では、より具体的な「ハード面」の意見が出た。第 4 回では、「ソフト面」の意見が増えた。第 5 回では、「運営・複合化」の意見で約 8 割を占めた。回を重ねる毎に「運営・複合化」の意見割合が大きくなった。

2-3. ワークショップ全体

「利用・運営」では、平成 25 年度の第 2 回では「交流」の意見の割合が約 4 割であったが、回を経るごとに減った。「セキュリティ・災害時対応」は、回を経るごとに割合、具体性が増した。「運営・複合化」は平成 25 年度、26 年度ともに多くの意見を集めたが、回を経るごとにその割合は大きくなった。

3. 意見交換会・模型展示会の状況

本章では、平成 25 年度、26 年度に開催された意見交換会・模型展示会の概要について、実施内容、アンケートに着目して明らかにする。

3-1. 意見交換会・模型展示会実施内容

平成 25 年度、26 年度に行われた意見交換会、模型展示会の実施概要を表 2 に示す。

平成 25 年度は、小学生 WS とオープン WS を行い、参加者は 15 人、来場者は 8 人と少なかった。平成 26 年度は、意見交換会と模型展示会を行った。意見交換会の参加者は 15 人、来場者は 8 人であった。模型展示会の参加者は 3 人、来場者は 60 人であった。

3-2. 意見交換会アンケート結果

平成 25 年度・平成 26 年度に行われた意見交換会の内容を表 2 に示す。

WS 参加者からは新しいアイデアが生まれることや、新しい視点で見ることができたなどの意見が出た。来場者からはとても良い取り組みだと思ふなどの意見が出た。

3-3. 模型展示会アンケート結果

模型展示会に来場した人に対して実施したアンケートの結果を図 1 に示す。

アンケート回答者は 57 人であった。与野本町小学校の立て替えや、WS について約 8 割の人が知らなかった。模型展示会は、取り組みへの関心や参加する意欲を高めると言える。展示物の分かりやすさについての問いには約 8 割が分かりやすいと回答した。模型展示会は取り組みへの理解にも役立つと言える。

4. まとめ

本研究では、さいたま市与野本町小学校を中心とする公共施設複合化検討の WS を事例として、ワークショップの効果について以下のことを明らかにした。

・施設見学を行うことで「交流」や「ソフト面」の意見を多く集めることができる。

・平成 25 年度、第 4 回以降は平面図や模型を用いて検討を行い、「ハード面」の意見を多く集めることができた。

・平面図でのデザインゲームを行うことで、「ソフト面」で出た意見を「ハード面」に反映させることができた。

・期間をあけてワールドカフェを行うことで新しいアイデアが出た。

・ワークショッププログラムは異なったプログラムを組み合わせるにより、様々な意見が出て各分野の意見が出そろった。

・模型展示会は市民への取り組みの周知や関心を高めてもらう機会となった。また、意見交換会を行うことで新しい意見を集め、新たな視点を得ることができた。

注釈

注 1) 平成 25 年度、26 年度の意見交換会のアンケートはさいたま市、平成 26 年度模型展示会のアンケートは芝浦工業大学が行った。

注 2) 第 1 回 WS では、公共施設マネジメントの取り組みの説明やミニ WS を行った。

表 2 意見交換会実施概要

	平成25年度	平成26年度
意見交換会	12月26日(月) 14:30~16:30 参加者数>16人 来場者数>8人 小学生ワークショップ・オープンワークショップ 各チームの代表者が前回のワークショップでまとめた案を来場者に説明した。その後来場者の自治会役員や学生、与野本町小学校の在校生・卒業生、昨年ワークショップ参加者との意見交換を行った。	11月30日(日) 10:00~11:50 参加者数>15人 来場者数>8人 オープンワークショップ 各チームの代表者が前回のワークショップでまとめた案を来場者に説明した。その後来場者の自治会役員や学生、与野本町小学校の卒業生、ワークショップ参加者との意見交換を行った。
模型展示会		平成26年11月30日(日) 10:00~11:50 参加者数>3人 来場者数>60人 学生やさいたま市、NPO、WS参加者の有志によって模型展示会が行われた。来場者の方に原則対してさいたま市の取り組みや現在検討がされている複合化案について説明を行った。

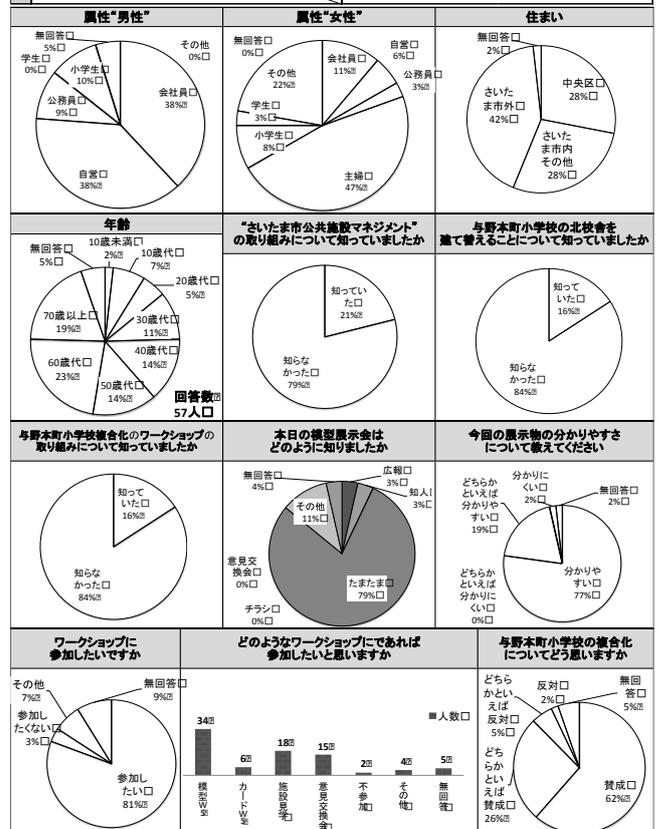


図 1 模型展示会アンケート結果

*芝浦工業大学大学院理工学研究課建設工学専攻 修士課程

**千葉工業大学工学部デザイン科学科 准教授・博士 (工学)

***芝浦工業大学建築学科 教授・博士 (工学)

*Graduate School, Shibaura Institute of Technology

**Assoc. Prof. Dept. of Design, Faculty of Engineering, Chiba Institute of Technology, Dr. Eng.

*** Prof. Dept. of Architecture, Shibaura Institute of Technology